



2020年 日本の教育が 変わる

大学入試の方法も 教科書も変わる

「大学入試改革」という言葉を聞いたことがありますか？ 大学入試は2020年から新制度に移行し、現在のセンター試験はなくなり、2つの新テストがスタートします。テストの問題や受験の方式、評価の視点が従来とは変わります。それに対応し、小学校・中学校・高校の学習指導要領も大幅に改訂へ。「主体的・対話的で深い学び」が取り入れられ、教科書も変更されます。大学入試改革を機に、日本の教育改革が図られるのです。

新テストの試行期間は2019年度の、高校2年生から受験対象。そのため、今の中学2年生から関係する問題と思われるがちですが、実は数年前から大学ごとの入試では評価対象に変化が見られ、入試改革は既にスタートしているとも言えます。また、小学校の授業も変わるため、低学年の保護者も関心を持ち、今から準備しておきましょう。

親ができることは？

FOR ADVICE 1

教育改革の有識者に聞きました



政府 教育再生実行会議のメンバー (株)すらネット代表取締役社長 湯野川 孝彦さん
大手個別指導塾の経営支援を経て、対話型eラーニング教材「すらら」を企画・開発。2015年より、教育再生実行会議において有識者として大学入試改革に携わる。

下記のADVICE1~3は湯野川さんにインタビューしました

まず保護者は、改革の概要と問われる能力を把握しましょう。そのうえで子どもとの関わりで意識したいことについて、教育改革に携わる有識者と、保護者から支持を集める教育評論家にアドバイスをいただきました。

ADVICE 1 社会で生きていく能力を 育むシステムへ

現状の学校教育や入試問題は、知識の暗記や再現に偏りがちで、思考や判断を必要とする機会が十分にあるとは言えない状況です。そのため、主体性を持って多様な人々と協調する態度など、真の「学力」を身につけられないまま社会へ出ていくことになっていくことが、大きな課題であると言われています。

そこで大学入試制度を変えれば、高校・中学校、小学校の学校教育も、より時代に適したものに改革できるのではないかと考えられています。「大学入試改革」が実行されます。大きく変わる点は、センター試験に代わり、新テスト「高校基礎学力テスト」と「大学入学希望者学力評価テスト」が開始されること。2つの新テストに加えて実施される

各大学の試験でも、多面的・総合的な評価に重きが置かれます。高校では「教科をクロスオーバーさせる学び」が一般的になります。例えば、地図で地域の土壌を知り(社会科学)、土壌成分を顕微鏡で見て(理科)、その結果をグラフ化して分析する(情報数学)といった授業が行われるでしょう。

中学では教科書も大きく変わります。レポートや研究などの課題を通じて、表現力・思考力・記述力を身につける授業が増えてくるでしょう。また、小学校では「プログラミングが必修科目」になったり、英語も5年生から教科化されます。

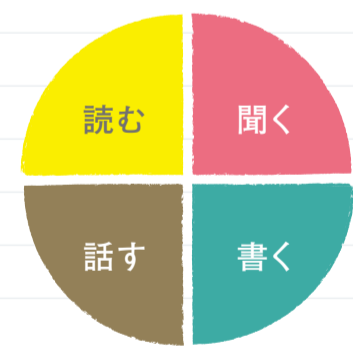
このように情報化やグローバル化が進む社会に適應できる新たなシステムづくりが始まりつつあります。

新たな試験に変わる

- 内申点 → 高等学校基礎学力テスト
- センター試験 → 大学入学希望者学力評価テスト
- 各大学の試験 → 面接や討論も実施

従来のセンター試験は廃止され、新たに高校2・3年生を対象に受験できる「高等学校基礎学力テスト」と、年数回行われる「大学入学希望者学力評価テスト」が導入。2つの新テストと大学ごとの試験で合格が決まるので入試対策はもちろん、定期テスト対策も重要になる。新テストでは、コンピュータ端末に解答を入力するCBT (Computer Based Testing) 方式も採用。各大学の試験では、小論文や面接、集団討論などが取り入れられ、より実践的な能力が問われる。

英語で求められる4技能



上記の4技能をバランスよく評価できるよう、大学入試に英検・TOEFL・TOEIC・TEAPなどの民間の資格・検定試験も活用される。

ADVICE 2 今後問われる能力とは？

新制度で求められる能力とは、やはり国立教育政策研究所が提案する「21世紀型能力」です。様々な問題を解決できるように、学校教育で身につけたい資質・能力として、「思考力」を核に「基礎力」と「実践力」を挙げています。

「基礎力」とは、いわゆる「読み書きそろばん」の部分ですが、単に暗記するにとどまらず、つひとつひの概念を理解し「どうしてそうなるのか」といった本質的な考え方を学ぶことです。「思考力」では、問題を解決するために必要な力だけではなく、新たな疑問やアイデアを考えたり、問題の解き方を振り返って次の機会に生かす力も求められます。このようにして身につけた「基礎力」「思考力」を社会的なかで実践し、鍛えていく力が「実践力」です。

21世紀型能力の育成を目指し、能動的に学ぶ「アクティブラーニング」を推進し、授業にグループワークを取り入れる学校が増えていきます。ある高校では、スクリーンに英語の文章を10秒間映したあと、グループごとに何が書かれていたかを話し合ってから発表するという学習を実施。結果は、学力が高いグループよりも、十分に意見交換ができたグループのほうが正しい解答を導き出したそうです。このことから、「コミュニケーション能力」も重要であることがわかります。

英語も、コミュニケーションをより重視した「読む・聞く・書く・話す」の4技能が評価対象に。グローバル社会に必要な、英語を使いこなす力が必須になってきます。

学習指導要領の改訂スケジュール(予定)

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
小学生					全面実施				
中学生		教科書改訂			全面実施				
高校生		プレテストを実施		高等学校基礎学力テスト導入			22年入学以降の生徒に実施		
大学入試				センター試験終了(2020年冬まで)	実施内容を公表、プレテストを実施	大学入試希望者学力評価テスト導入			

21世紀型能力とは？

基礎力

言語・数量・情報(ICT)のスキル。暗記ではなく概念から理解し、問題を解決する際に応用し活用する力。

思考力

基礎力をもとに問題解決・発見・創造をし、論理的・批判的に思考する力のこと。問題を客観的に振り返ったり、学びを深める力も含まれる。

実践力

基礎力・思考力をもとに主体的に行動して人間関係を形成し、社会に参画する力。

